

Zakharova
Repin

スヴェトラナ

ザハロワ レーピン

ワディム

「パ・ド・ドゥ for Toes and Fingers」

「瀕死の白鳥」

『ライモンダ』より グラン・アダージョ (グラスノフ) 振付:マリウス・ブティバ 改訂振付:牧阿佐美

瀕死の白鳥 (サン=サーンス) 振付:ミハイル・フォーキン

ワルツ・スケルツォ 作品34 (チャイコフスキー) ★

序奏と Rond・カプリチオーソ 作品28 (サン=サーンス) ★

Revelation (J.ウイリアムズ「シンドラーのリスト」より) 振付:平山紫子 録音音源使用

タイスの瞑想曲 (マースネ) ★ ほか

★レーピンソロ

スヴェトラナ・ザハロワ [バレエ] ワディム・レーピン [ヴァイオリン]

ミハイル・ロブーピン [バレエ] ほか フェスティバル・アンサンブル (リーダー:南 紫音)

2019 **6.5** (水) 19:00 開演 (18:00 開場) ザ・シンフォニーホール

SS席 16,200円 S席 10,800円 A席 6,480円 (税込) 一般発売 2018年11月25日(日)10:00- [Sinfonia会員先行 11月22日(木)10:00-]

ご予約・お問い合わせ ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 (10:00-18:00 火曜定休) <http://www.symphonycorner.jp>

プレイガイド ■チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード: 132-968] ■e+ (イープラス) <http://eplus.jp/symphonycorner/> (パソコン・携帯)

■ローソンチケット 0570-084-005 [Lコード: 54157] 0570-000-407 (オペレーター対応 10:00-20:00)

*未就学児のご入場は御遠慮いたしております。*約90分 休憩なし *やむを得ない事情により、出演者、曲目、曲順が変更になる場合がございます。予めご了承ください。主催:AMATI/ザ・シンフォニーホール

TRANS-SIBERIAN
ART FESTIVAL

トランス・シベリア芸術祭 in Japan 2019



スヴェトラーナ

ワディム

ザハローワ & レーピン

“バ・ド・ドゥ for Toes and Fingers”

「瀕死の白鳥」

クラシックファンも、バレエファンも見逃せない夢の共演。が再び日本で実現する。「ロシアの至宝」ポリショイ・バレエのスヴェトラーナ・ザハローワと、その夫で世界的ヴァイオリニスト、ワディム・レーピンによる究極のコラボ。目玉は、夫婦ならではのヴァイオリン演奏による「瀕死の白鳥」だ。アンナ・パヴロワら伝説的プリマが、チェロの旋律に合わせ踊った名作。白鳥が最後の生命の輝きを表現するソロは、選ばれた名花しか踊れない演目でもある。もちろん同作をレパートリーにするザハローワだが2016年、東京でレーピン奏でるヴァイオリンで「瀕死の白鳥」を初披露。マエストロが舞踊の伴奏をするのは「妻との公演だけ」。芸術家夫婦の究極の交歓の1曲は、客席総立ちの喝采を呼び起こした。

文 飯塚友子



スヴェトラーナ・ザハローワ [バレエ] Svetlana Zakharova, dancer

ウクライナ共和国出身。国立キエフ・バレエ学校でワレリヤ・スレーギナに学ぶ。1995年にワガノフ・バレエ・アカデミーに転校、エレナ・エフテーエワに師事。翌年、マリンスキー劇場バレエに入団、1997年プリンシパルに昇格。またパリ・オペラ座、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤル・バレエ、ABT、新国立劇場など世界のバレエの殿堂からも招聘される。2003年よりポリショイ劇場のプリンシパル。「眠れる森の美女」、「白鳥の湖」、「ジゼル」、「バヤデール」、「ドン・キホーテ」、「海賊」、「ラ・シルフィード」、「パフチサライの泉」(R.ザハローワ版)、「ロメオとジュリエット」(L.ラヴロフスキー版)などのクラシック・バレエに加え、マクミラン「マノン」、バランシン「アポロ」、「ジュエルズ」、「セレナーデ」、「シンフォニー・イン・C」、ノイマイヤー「ナウ・アンド・ゼン」などの現代作品まで幅広いレパートリーで世界を魅了し続けている。これまでワガノワ賞、ゴールデンマスク賞、ゴールデンソフィット賞、ブノワ・ラ・ダンス賞などを受賞。ロシア連邦人民芸術家。



ワディム・レーピン [ヴァイオリン] Vadim Repin, violin

1971年ノヴォシビルスク生まれ。5歳でヴァイオリンをはじめ、その6ヶ月後にはステージで初めての演奏を果たした。11歳でヴェニヤフスキー・コンクール優勝。1985年には14歳にして東京、ミュンヘン、ベルリン、ヘルシンキ、翌年にはカーネギーホールにデビュー。そしてさらに2年後、17歳でエリザベート王妃国際コンクール優勝。以来、ベルリン・フィル、ボストン響、シカゴ響、クリーヴランド管、イスラエル・フィル、ロンドン響、パリ管、コンセルトヘボウ管弦楽団、サンクトペテルブルク・フィル、スカラ・フィルをはじめ、世界有数のオーケストラと共演を続けている。リサイタル、室内楽でもルガンスキー、アルゲリッチ、ケーシン、マイスキー、クニャーゼフ等がパートナーである。CD録音も多く、ワーナー、ドイツ・グラモフォンに数々の名盤を残している。使用楽器は1735年作のガールネリ・デル・ジェズ「ラフォン」。2014年より芸術監督として故郷ノヴォシビルスクにてトランス・シベリア芸術祭を主宰している。



ミハイル・ロブーヒン [バレエ] Mikhail Lobukhin, dancer

レニングラード(現サンクトペテルブルク)出身。2002年にワガノフ・バレエ・アカデミーを卒業。同アカデミーでボリス・プレグワゼのもと芸術学士号を優秀な成績で取得。同年マリンスキー・バレエに入団し、「ジゼル」、「海賊」、「ラ・バヤデール」、「白鳥の湖」、「ライモンダ」、「ドン・キホーテ」をはじめクラシックから現代作品まで幅広いレパートリーを踊る。2010年ポリショイ・バレエに移籍後も「ロメオとジュリエット」、「スバルタクス」、「カルメン組曲」などレパートリーをさらに広げ活躍。日本へも度々来日している。